



約2,100輪の桜花が華やかさを競う



1階のメインバー



焙煎機まわりは銅また銅



高さ17mのキャスク。槌目のひとつひとつに心が伝わる

# 高さ17mのキャスクに約2,100輪の銅の桜花！ スターバックス旗艦店が中目黒にオープン

全国各地で人気上昇一途の「スターバックス」。その旗艦店とも言える「スターバックス リザーブ® ロースタリー」は、シアトル、上海、ミラノ、ニューヨークと世界に4店舗あるが、このほど東京・中目黒の目黒川沿いに5店舗目がオープンした。

この施設は、スターバックスデザインチームと話題の建築家隈研吾氏のコラボレーションによるもので、モダンと伝統美が融合した見事な店舗空間を創り上げている。

川を背に入口の大きな扉を開けると目に飛び込んでくるのが、吹き抜けを4階の高さまでそびえ立つ17mのキャスク（貯蔵庫）。槌目模様の121枚の銅板で仕上げられており、目黒川沿いに咲く名物の桜が空に舞う姿をイメージ。キャスク表面には職人が1枚1枚手作業で作り上げた桜の花びらが配されている。内側に焙煎設備も内蔵し、焙煎した豆を飲み頃まで貯蔵している。キャスクまわりの桜は合わせて約2,100枚、デザインも14種に及ぶ。

店内にはキャスクを中心に焙煎機まわり、サイフォン、店内サイン、各種小物と銅が多用されており、赤銅の輝きに満ちあふれている。スターバックスファンのみならず、一見の価値ある店舗である。



スターバックスリザーブ® ロースタリー 東京の外観



店内の各種サイン、小物類にも銅が多用されている

